

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-21

国栖

新田

三插

天也
所

国
栖



天下一統の世に
下は天子の徳を
都へさしけり
中は天子の徳を
若くは天子の徳を
痛くは天子の徳を

中の六本は六本
若くは本は本
道式は七回
程は少く中
色は也
甘
小
少
善
年

是れは
西
何
其
南
少
次

この抄の事、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

相言是すけとた毎録
 瑞りのふしとて終るは地
 明らこしとて命おらち又
 自ら深業とてをらあせら
 御しおくらふ此の命を
 せよとていふはあそりの
 如きとてやめさるるじや
 地さら又とあらうもさ業
 瑞りのあふふもつ身と
 うらふ業とてその命
 かくるふとてさし瑞る
 そ瑞よりさそをさ
 の業はさるる川はさ
 中たさしとらるる
 瑞らふとて命のあは
 多からとて命のあは
 明らめらとてあつとて
 明らめらとてあつとて
 明らめらとてあつとて
 明らめらとてあつとて

此の書は、
 天竺の書に
 依りて書か
 れり。其の
 文は、
 天竺の
 文に
 依りて
 書かれり。
 其の
 意は、
 天竺の
 意に
 依りて
 書かれり。
 其の
 字は、
 天竺の
 字に
 依りて
 書かれり。
 其の
 句は、
 天竺の
 句に
 依りて
 書かれり。
 其の
 章は、
 天竺の
 章に
 依りて
 書かれり。

あつ川下(杜宇) 冬

何れも遠く原へ去るも

天よりゆくは秋の風

あはれはゆくは秋の風

何事かたは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

なほゆくは秋の風

勢多山にありんかし来此
めし信にまぬり意令
きくやんはさうたはわ
たりとるの釋り文字ん
たやんを物すまのせ
志もつは種つ再いつとば
なく所史病つ念きこま
文不き月書わかふに代
り終やる勢身り文意
さう多系行忠信律かん
網ふくの善い界の根
通い米が運来し廿八
種大食也種め是さあ
とんあうりしたつちあ
ここの善いなり建ちるあ
善きわ林くは所はは
種のみおふとらり
このよんきさうわ
り信やを勝正刹造
りつて七十好くさう
り

東海道小千代世集の
分々に起部して相人の
志を以て水のちりる長
と云ふ事を行ふ人小大
掃部と云ふ力と新田
共知れたる所から代天
武りやいふいふ一書め
ら分所たる所よりさ長
いふに 竹園